

購読の申し込みは
日本医労連へ

購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)

送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替00160-6-84866

ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

第1792号 2022年12月 8 日

編集・発行
日本医療労働組合連合会
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871
発行 毎月2・4木曜日

(昭和36年9月15日)
(第三種郵便物認可)



11月23日「第13回地域医療を守る運動全国交流集会」がオンラインで開催され、集団視聴も含め180人以上が参加。記念講演で学び、全国の運動を共有しました。

住民と共同が運動のカギ

第13回地域医療を守る運動全国交流集会

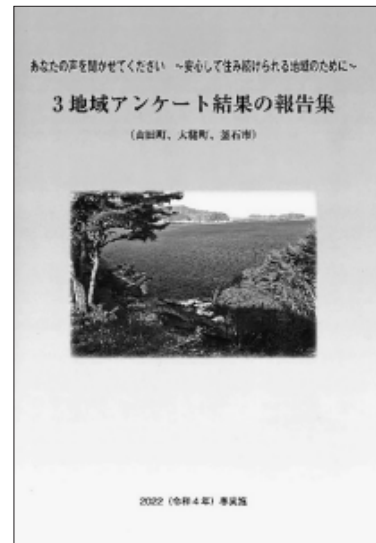
宮城県医労連は、4病院再編・統合・移転問題の経過を報告しました。精神医療センター移転については、働く職員にとったアンケート結果が

地域医療を守る岩手県連絡会は、地域住民の医療に対する要望と、「誰もがいつでもどこでも安心して受けられる医療」とは何か、を共通認識させるため住民アンケートを実施しました。その結果はリーフレット(下)にし、県会議員にも配布、病院長らとも懇談しました。今後も地域の「守る会」とともに県知事要請などを行う予定です。

地域住民に語り
共同して運動を進めよう

開会に先立ち中央社保協の山田智代表委員は、民医連が行った2万人分の調査データから、高齢者の貧困と孤立が明らかになったと話しました。また高齢者増加率の高い都市部が病床削減の対象となっており、一番必要どころが一番削られていると指摘。今集会を通じて、地域医療を守るため私たちの運動を全国に広げようと呼びかけました。

進む高齢化と病床削減
報告に先立ち中央社保協の山田智代表委員は、民医連が行った2万人分の調査データから、高齢者の貧困と孤立が明らかになったと話しました。また高齢者増加率の高い都市部が病床削減の対象となっており、一番必要どころが一番削られていると指摘。今集会を通じて、地域医療を守るため私たちの運動を全国に広げようと呼びかけました。



地域医療を守る岩手県連絡会は、地域住民の医療に対する要望と、「誰もがいつでもどこでも安心して受けられる医療」とは何か、を共通認識させるため住民アンケートを実施しました。その結果はリーフレット(下)にし、県会議員にも配布、病院長らとも懇談しました。今後も地域の「守る会」とともに県知事要請などを行う予定です。

地域住民に語り
共同して運動を進めよう

開会に先立ち中央社保協の山田智代表委員は、民医連が行った2万人分の調査データから、高齢者の貧困と孤立が明らかになったと話しました。また高齢者増加率の高い都市部が病床削減の対象となっており、一番必要どころが一番削られていると指摘。今集会を通じて、地域医療を守るため私たちの運動を全国に広げようと呼びかけました。

進む高齢化と病床削減
報告に先立ち中央社保協の山田智代表委員は、民医連が行った2万人分の調査データから、高齢者の貧困と孤立が明らかになったと話しました。また高齢者増加率の高い都市部が病床削減の対象となっており、一番必要どころが一番削られていると指摘。今集会を通じて、地域医療を守るため私たちの運動を全国に広げようと呼びかけました。

住み続けられる地域を守る

—医療提供体制の再編と
公立・公的病院削減政策の破綻と再生—

東京自治労連は、「小池都政による都立・公社病院の地方独立行政法人化の問題」について報告しました。連絡会と守る会では知事要請や議員懇談、宣伝行動を重ね、引き続き運動を継続していくと述べました。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。

東京都自治労連は、「小池都政による都立・公社病院の地方独立行政法人化の問題」について報告しました。連絡会と守る会では知事要請や議員懇談、宣伝行動を重ね、引き続き運動を継続していくと述べました。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。

地域医療構想とは、急性期医療に対応する病床を大幅に削減する計画で、ねらいは医療費抑制です。コロナ禍を経て国主導であった地域医療構想は、都道府県を前面に押し出したものに見直しをせざるを得ない状況です。



日本医療総合研究所 研究・研修委員 寺尾正之氏



最後に、みえ自治労連は、名張市の地域医療に関する市民アンケート運動を報告しました。アンケート結果は、その後の市長選挙にも影響を与えています。

最後に、みえ自治労連は、名張市の地域医療に関する市民アンケート運動を報告しました。アンケート結果は、その後の市長選挙にも影響を与えています。

最後に、みえ自治労連は、名張市の地域医療に関する市民アンケート運動を報告しました。アンケート結果は、その後の市長選挙にも影響を与えています。

最後に、みえ自治労連は、名張市の地域医療に関する市民アンケート運動を報告しました。アンケート結果は、その後の市長選挙にも影響を与えています。

自己責任では解決しないからこそ、社会保障の政策と制度が作られてきました。これをまた自己責任や家族・地域の助け合いに置き換えることは、公的責任を曖昧にすることになり歴史的逆行です。次世代に安心な社会を受け渡すためにも、①史上最悪の介護保険改定を許さない、②マイナンバーカード取得義務化につながる健康保険証廃止の撤回、③物価高対策のひとつとして75歳以上窓口負担「2倍化」の凍結が必要です。

連携推進法人についても、医療施設と病床、人員の集約をすすめる効率化の側面があるのに注視が必要です。

次世代の人たちに
安心な社会を受け渡そう

脈路

大好きな海外旅行にもう10年以上行っていない。会いたい友達とはメールで繋がっていたが、だんだん疎遠になってしまい、今は数人の友人とLINEで会話をする程度▼初めての海外旅行は韓国。食堂のおばさんとおじさんがとても優しい人で、いつか韓国語で「あの時は親切にしてくれてありがとう」と言えることを目標にゆっくりゆっくりと勉強中▼若い頃は一人でバックパックを背負って、韓国国内をバスや鉄道で縦断、横断し、いろいろな人たちと出会ってとても楽しかった。ソウルにいる友人が私に会いに日本に来てくれたこともあった。その時に言われたことがとても印象に残っている。「日本にはいい印象がない。政治や歴史の問題があるから」と。私も友人に「でも、こうやってたくさん話をしてお互いに理解を深めていけば仲良くなれるじゃない?」そう友人に問いかけると、「日本人の印象が少し変わった」と言ってくれたことがとても嬉しかった。別の友人は「独島は韓国のものではない?」だって私たちは小さな頃からそう教えられてきたから」と、何の疑問もなく答えた事が私を複雑な気持ちにさせた。▼しっかりと向き合って話をすれば理解しあえる関係を築ける経験をした私にとって、今の政府にも軍拡ではなく対話での外交努力に力を尽くして欲しいと思う。

大幅増員・夜勤改善署名
紹介・賛同議員73人に
医療労働者1791号に掲載した「紹介・賛同議員
応諾一覧」を精査し、11月末現在のものを再掲載
いたします。

紹介・賛同議員73人応諾一覧 ●紹介議員 ○賛同のみ				
衆議院	松木けんこう	立民	北海道2	●
	逢坂 誠二	立民	北海道8	●
	緑川 貴士	立民	秋田2	●
	鎌田 さゆり	立民	宮城2	●
	国光 あやの	自民	茨城6	●
	篠原 豪	立民	神奈川1	●
	阿部 知子	立民	神奈川12	●
	笠 浩史	立民	神奈川9	●
	斎藤 洋明	自民	新潟3	●
	菊田 真紀子	立民	新潟4	●
	米山 隆一	立民	新潟5	●
	下条 みつ	立民	長野2	●
	源馬 謙太郎	立民	静岡8	●
	重徳 和彦	立民	愛知12	●
	神田 憲次	自民	愛知5	●
	井坂 信彦	立民	兵庫1	○
	馬淵 澄夫	立民	奈良1	●
	佐藤 公治	立民	広島6	●
	小川 淳也	立民	香川1	●
	吉良 州司	有志	大分1	●
	渡辺 創	立民	宮崎1	●
	赤嶺 政賢	共産	沖縄1	●
	新垣 邦男	立民	沖縄2	●
	神谷 裕	立民	(比)北海道	●
	小沢 一郎	立民	(比)東北	●
	青山 大人	立民	(比)北関東	●
	小宮山 泰子	立民	(比)北関東	●
	塩川 鉄也	共産	(比)北関東	●
	宮本 徹	共産	(比)東京	●
	笠井 亮	共産	(比)東京	●
	谷田川 元	立民	(比)南関東	●
	志位 和夫	共産	(比)南関東	●
	山崎 誠	立民	(比)南関東	●
	たがや 亮	れ新	(比)南関東	●
	篠原 孝	立民	(比)北陸信越	●
	本村 伸子	共産	(比)東海	●
	吉田 統彦	立民	(比)東海	●
	櫻井 周	立民	(比)近畿	●
	大石 晃子	れ新	(比)近畿	●
	宮本 岳志	共産	(比)近畿	●
	柚木 道義	立民	(比)中国	●
	白石 洋一	立民	(比)四国	●
	田村 貴昭	共産	(比)九州	●
	稲富 修二	立民	(比)九州	●
参議院	横沢 高德	立憲	岩手	●
	寺田 静	無	秋田	●
	石垣 のりこ	立憲	宮城	●
	芳賀 道也	国民	山形	●
	舟山 康江	国民	山形	●
	伊藤 岳	共産	埼玉	●
	水野 素子	立憲	神奈川	●
	打越 さく良	立憲	新潟	●
	杉尾 秀哉	立憲	長野	●
	羽田 次郎	立憲	長野	●
	吉良 よし子	共産	東京	●
	山添 拓	共産	東京	●
	倉林 明子	共産	京都	●
	宮口 治子	立憲	広島	○
	ながえ 孝子	碧水	愛媛	●
	野田 国義	立憲	福岡	●
	古庄 玄知	自民	大分	○
	伊波 洋一	沖縄	沖縄	●
	高良 鉄美	沖縄	沖縄	●
	井上 哲士	共産	比例	●
	岩淵 友	共産	比例	●
	紙 智子	共産	比例	●
	木村 英子	れ新	比例	●
	小池 晃	共産	比例	●
	田村 智子	共産	比例	●
	福島 みずほ	社民	比例	●
	船後 靖彦	れ新	比例	●
	山下 芳生	共産	比例	●
	仁比 聡平	共産	比例	●

安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める国会請願署名(紹介・賛同議員一覧)

22秋・対政府交渉 現場の声切実



前号に引き続き、11月17日～18日
で行った厚労省の、医療・労働分野
の交渉内容を紹介します。

厚労・医療

医療分野の交渉には、17人
(オンライン9人含む)が参
加しました。

●患者の自己負担

患者の窓口自己負担分や保
険料などの軽減を求めて交渉
しましたが、厚労省は医療費

増大を理由にある程度の自己
負担はやむを得ない、という

厚労・労働

労働分野は、22人(オンライ
ン14人含む)が参加しました。

●労働時間の適正管理につい
て

残業時間について、始業前
8割、終業後5割が申告でき
ていない実態(医労連退勤時
調査)を紹介し、ガイドライ
ン(※)の徹底を求めました。

また、「eラーニング」や
コロナ禍でオンラインによる
研修受講など、従来の労働と
は異なる働き方による労働時
間の把握が増えていること

見解でした。しかしOECD
の中でも日本の社会保障費は
決して高くはなく、感染症対
策の面から見ても受診抑制が
働く今の政策には不安があ
る。物価高で国民から医療が
さらに遠ざかる心配もあると
し、今後の施策の見直しを求
めました。

●物価高騰に対する国の支援
電気やガス、水道光熱費な
どの物価高騰に対し、「新型
コロナウイルス感染症対応地

方創生臨時交付金」を積み増
し、国の支援強化を要請。厚
労省は新たに、電力・ガス・
食料品等価格高騰重点支援地
方交付金を創設し、使用には
推奨事業メニューを掲げよう
と回答。しかし地方では、
交付金を取り合いとなり医療
機関に回ってこない実態があ
り、医療介護事業優先にして
ほしいと訴えました。

●医療供給体制
十分な医療供給体制確立の

や、中には時間外を認めない
例があること等も紹介しなが
ら、そうした働き方による労
働時間の把握について適正な
指導を行うよう求めました。

また、自己申告の労働時間
と実際に事業場内にいた時間
との間に乖離が生じた場合
に、ガイドラインが使用者に
実態調査を実施するよう求め
ていることに関連した参加者
からの問いに、厚労省は「使
用者が応じようとしなければ
労働基準監督署に監督・是
正を求めることが可能」との
考え方を示しました。

要請に関して、「日本の感染
症医療体制は、今回のような
感染症パンデミックに対応で
きなかった。現場は人手が足
りなくて、病床確保の対応が
できないことを繰り返してい
る。地域医療構想とリンクさ
せた看護師確保の仕組みを抜
本的に転換しなければ、感染
症危機に国民の命が守られる
体制は構築できない」と強く
指摘しました。

●処遇改善

●医師の長時間労働、夜勤規
制について

健康確保措置を条件として
医師に長時間の時間外労働を
認めていることについて、健
康確保措置そのものが役に立
たないことや、現場の勤務医
に過度な負担を強いている実
態なども示しながら、医師を
増員して時間外労働そのもの
を削減するよう求めました。

また、夜勤労働の労働者保護
規制についても、発がん性と
夜勤労働との関係性について
のエビデンスがないとする厚
労省に対し、現場で夜勤者に

健康障害が生じている実態を
示しながら、医学的なものが
なくとも統計的なエビデンス
から規制をかけるべきだと厚
労省の姿勢をたどしました。

●インターバル規制、均等待
遇の前進を

他にも、インターバル規制
や非正規雇用労働者の均等待
遇など、法律で義務化されて
いながら、現場では改善が進
んでいない実態を報告し、規
制・指導強化を求めました。

(※)「労働時間の適正な把
握のために使用者が講ずべき
措置に関するガイドライン」

安全・安心でよりよい病院給食 調理現場の魅力を発信しよう

第32回病院給食問題全国交流集会

11月20日～21日に「第32回病院給食問題全国
交流集会」をオンライン併用で開催し、全国か
ら45人(4全国組合15都道府県)が参加しまし
た。

記念講演



日本医労連 森田しのぶ顧問

を、自身の経験を踏まえ講演。
「いま医労連の運動で情勢が
確実に動き出している」と語
りました。

参加者からは「人間らしい
働き方を改めて考えさせられ
た」「医労連の大切さを実感
した」「講演で紹介された『我
慢は美德ではない』という言
葉は全ての医療労働者に共通
する言葉だと感じた」などの
感想が寄せられました。

森田顧問は、権利改善を求
めてきた日本医労連の医療労
働運動の歴史、そしていのち
と平和をまもる政治の実現を
目指して運動することの意義

全体会、分代会・分科会
全体会では全国の給食現場
で起きている問題を話し合い
ました。人員不足がどの現場
から共通の問題となってい
ました。募集をかけても全
く応募がなく、その結果、長
時間労働が慢性化しているこ

と、年休の消化ができずに現
場全体が疲弊していることが
報告されました。また、賃金
の低さから残業代が生活給と
なっている問題や物価上昇に
より患者さん・利用者さんに
良いものが提供できなくなっ
ていること、業務委託が入っ
ている現場では委託費が高騰
していること、個別対応食や
特別食対応の問題が出てい
ることなどが報告されました。



まため集会では、厚労省や
政府に意見をしっかりと伝え、
給食の現場を働きやすい職場
にすること、働き甲斐のある
職種になるように調理現場の
魅力をアピールしていく事を
確認しました。

保育士の声を届けるため 集い語り学び合う

第44回
保育所会議



日本医労連保育対策委員会は、11月27日、「第44回保育所会議」をオンラインで開催し、2全国組合8都道府県23人が参加（保護者含む）。オープニングに岩手どんぐり保育園の紹介動画を流し、ほのぼのとした雰囲気での開会となりました。

記念講演は、岩手県医師会子どもたちの「生きる力」を育む検討委員会委員で千田クリニック医師の千田恵美さんに「全ての子どもたちの幸せのために、私たちが知っておきたい非認知能力とは」と題して講演頂きました。

聞きなれない非認知能力について千田さんは、「自制心や忍耐力など自分と向き合う力であり、学力である認知能力の骨組みになるもの」と説明。この非認知能力を育むために、幼児から学童、そして大人までに意識したいことは、「主体性や好奇心を持つて自分

決める力をつけること、自己肯定感を高め、毎日の良かった探して満足度につなげていくことが重要」と話されました。

院内保育所で働く 保育士にも処遇改善を

基調報告は、保育対策委員会の川上真理事務局長が「2021年度院内保育所実態調査」の結果等をもとに、「政府が打ち出したケア労働者の処遇改善は院内保育所の保育士には届いていない。制度による差別と格差があつてはならない。院内保育所の労働環境と職

員の処遇改善のために引き続き声をあげていこうと呼びかけました。

悩みも共有し、仲間を増やそう

また、11月22日に実施した厚労省・内閣府要請の報告を森仁美保育対策委員が行いました。森さんは、「厚労省は保護者である医療従事者が院内保育所に子どもを預けられるよう、開園に向けて柔軟に対応する通知を発出しているにもかかわらず、なぜケア労働者の賃上げ事業から取り残されたのか」と迫ったことを報告しました。

全体討論では、「わらべうたあそび」を行ない、その後、各施設での悩みや課題などを出し合いました。委託化がすすむ現状と保育を儲けの対象にしない取り組みの報告や、議会請願などで当事者の声として要求していくことが必要であり、そのためには保育士の組織化が重要との発言などがありました。

22日本平和大会 大軍拡許さない 平和の取り組み交流

「なくそう!日米軍事同盟・米軍基地2022年日本平和大会」が、11月26日〜27日に開催され、2日間でのべ4千人が参加しました。海外代表の発言や各地の取り組み報告など、大軍拡を許さず軍事同盟によらない平和の秩序構築へ取り組みを交流しました。

開会集会の主催者報告で日本平和委員会の千坂純事務局長は、岸田政権が軍事費倍増の財源を国民への増税や社会保障関連費予算の削減で生み出そうとしていると告発。この動きに反対する国民的大運動を呼びかけました。ゲストスピーカーとして、ジャーナリストの金平茂紀さんが発言。与那国島の公道を走る自衛隊の戦闘車取材した記者が自衛隊に撮影データの消去を求められたことに触れ、「まるで戦前に戻った、軍事機密のようだ」と話しました。また、

「中国や北朝鮮を仮想敵に南西諸島の軍事基地化がものすごい勢いで進んでいる。いま起きていくことが、なぜ日本のメディア全体で共有されないのか」と指摘しました。

分科会「敵基地攻撃・大軍拡を許さない学習と運動の交流」では、「今日の軍拡のねらいは何か」「改憲・大軍拡とどうたたかうか」の学習講演後、各地各団体の取り組み報告が行われました。日本医労連・佐々木悦子中央執行委員長は、「基地のない鹿兒島、基地のない日本を」と決意が語られました。

翌日の閉会集会では、若者憲法集会実行委員会や、東京学生平和ゼミナールなど各分野からのリレートークが行われました。次回開催地の鹿兒島県平和大会実行委員会準備会からは、馬毛島の軍事基地化などの実態について報告し、「基地のない鹿兒島、基地のない日本を」と決意が語られました。

労働組合のパワーで 当然の権利を主張しよう

―第22回医療と介護にはたらく非正規労働者の全国交流集会―

施設での利用者の留め置き問題や、物価高騰による影響などを訴えました。

利用者の立場からの発言では、利用料の負担増について、「利用料は年金でまかなえない。不安と心配と怒りでいっぱい」と訴えがありました。

日本医労連・非正規対策委員会では、11月19日〜20日に、「第22回医療と介護にはたらく非正規労働者の全国交流集会」を福岡県で開催。3年ぶりにリアル開催となった同集会はオンライン併用で行い、3全国組合12県医労連から42人が参加しました。

記念講演は、岡山県労働者学習協会事務局長の長久啓太さんが「労働組合で自分の権利をとりもどす」と題して行いました。長久さんは、「労働組合は労働条件の改善を通じて『ゆとり』『自分らしさ』を獲得する（取り戻す）ことができる。非正規雇用労働者は構造的かつ継続的（知

らず知らず）に「格差・差別」を受けている」としたうえで、「原則が揺らぐときには当たり前の原則を声に出し、書き言葉を通じて確認しあわなければ原則そのものが破壊されていく、労働組合のパワーで当然の権利を主張しよう」と語りました。

続いて、3つの特別報告が行われました。

●道東勤労者は、道医労連の拡大目標に応じて非正規の拡大促進を決意したことを報告。

●東京民医労衛生会支部は、非正規雇用職員の一時金を巡る法人提案に対し、70人の非正規職員拡大の報告。

●岡山県医労連パート部の活動報告。

その後の3グループに分かれての分散会では、活発な意見交換ができました。

2日目は、「最賃風あげ」企画。無地の風にあびながら最賃への思いを書いて、「最賃上げがれ」と風あげをしようと企画しました。残念ながら風あげまでできませんでした。情報交換しながらの風作成は楽しい時間となりました。

介護の大改悪許さない! 新介護署名13万7638筆を提出

―11.22新介護署名提出行動―



厚労委員に介護署名を提出。左端は竹原介護対策委員

11月22日、衆議院第2議員会館で「介護保険制度の改善を求める11・22署名提出行動」が中央社保協・全日本民医連・全労連主催で開催されました。集会にはオンライン併用で行われ、35人が現地参加、全国86力所でYouTube視聴がありました。

集会では、激励にかけつけた国會議員で厚労委員の3人に、集約した介護署名13万7638筆を提出。続いて、利用者、事業者、介護労働者それぞれの立場から実態報告をしました。

介護現場は 持続不可能

東京医労連の久保達太郎さん（日本医労連介護対策委員）は、介護労働者の立場から、ケア労働者の賃上げについて発言しました。「賃金改善がすすまない」と人手不足が解消しない。一

人夜勤中に亡くなった事例もある。持続不可能な現場実態だ」と訴えたうえで、「介護労働者は、いい介護がしたい、利用者さんに寄り添いたい、その人らしい生活を支えたいという思いでケアしている。それが運動に



現場実態を報告する久保達太郎さん

繋がっている。労働者も事業者も利用者さんも同じ方向を向いて一緒に大きな声をあげていきたい」と発言しました。

東京民医労からは事業者の立場からの発言がありました。クラスト時の介護



新春プレゼント企画

アンケートに答えて
クオカードをゲット!



「医療労働者」読者に向けた2023年新春プレゼント企画です。下記 URL または QR コードから、「23春闘に向けたアンケート・4問」にご協力ください。

抽選で10名にクオカード1,000円をプレゼントいたします。

(23春闘に向けたアンケート)

- 問1. 23春闘で賃金が4万円上がったなら買いたいものは何ですか?
- 問2. 23春闘・団体交渉に向けて元気が出る曲は何ですか?
- 問3. 2023年にチャレンジしたいことは何ですか?
- 問4. 23春闘行動や集会時に、あったらいいな~と思うグッズは?

(回答はコチラから) 回答の締切は 2023年 1月10日(火)

<https://onl.sc/PqqBL58>



※アンケートの回答は医療労働者に掲載させていただきます。ご了承ください。(ペンネームでの回答也可)



「要求吹き出し」が大活躍 (愛知県医労連)

開会にあたり、舟橋初恵実行委員長(全労連女性部長)は、「集会でつながり、学びあい、交流して得た力を『わきまえない女たち』として声をあげ続け、政権を追い詰め

た。開会にあたり、舟橋初恵実行委員長(全労連女性部長)は、「集会でつながり、学びあい、交流して得た力を『わきまえない女たち』として声をあげ続け、政権を追い詰め



11月19日(20日)で、「第67回はたらく女性の中央集会 IN 大阪」が大阪市内の「エール大阪」をメイン会場にオンライン併用で開催されました。集会は、「武力で平和は守れない いまこそ憲法9条の力をいかそう 格差と貧困をなくし、生き生きと働ける社会を実現しよう いのち・くらし・平和をもつ女性の共同でジェンダー平等の実現を」をスローガンに、2日間で延べ727人(オンライン含む)が参加(日本医労連延べ94人)し、学び、交流し、たたかいの意思統一をしました。

はたらく女性のくらしと 権利を守る運動を交流

力政府・ロシア政府への決議案と、大会アピール案が読み上げられ、いずれも拍手で採

第54回中央委員会のご案内

【日時】 2023年 1月18日(水) 13時開会
2023年 1月19日(木) 12時閉会予定

【会場】
メイン会場『エデュカス東京7F会議室』 ハイブリット形式
〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1
TEL: 03-3230-3891 FAX: 03-3262-9705

- 【議事】 (1) 第1号議案「2023年春闘方針(案)」の討議・決定
(2) 2022年度上半期会計報告および会計監査報告
(3) 共済事業報告
(4) 2023年春闘産別スト権の確立

年末年始業務と事故連絡について

2. 休業中の事故受付

●火災事故・住宅災害損害センター 03-3366-7908
*査定員宅に転送されます。事故受付のみ。

●自動車事故
北海道 0120-252-924
東北 0120-246-250
関東 0120-898-819
中部 0120-365-625
西日本 0120-242-365
*事故受付のみ。

1. 年末年始の業務
- 年末は12月28日まで、年始は1月4日から平常通り。
 - UIC 締切 12月受付は12月26日郵送到着分まで。
 - 異動・解約、火災の加入受付 12月31日到着分まで。(FAX含む)
 - 慶弔メール請求(お助けソフト) 12月31日(土)到着分まで
 - 給付請求締切 12月28日の郵送到着分まで。(慶弔含む)
 - 慶弔メール請求(お助けソフト) 12月31日(土)到着分まで
 - 給付請求締切 12月28日の郵送到着分まで。(慶弔含む)

医労連共済だよ!

日本医療労働組合連合会 書記局員募集

日本医労連発第086号より、日本医療労働組合連合会(日本医労連)本部の書記局員を募集します。

医療・介護・福祉関係労働者の賃金・労働条件の改善、大幅増員をはじめ、安全・安心の医療・福祉の確立にむけた労働運動に熱意のある方を募集します。(応募締切までにご紹介がない場合、一般公募を行います)

- 【募集人員】 1名
【募集条件】 労働組合活動の経験がある方を優先的に採用します。要自動車免許、簡単なPC操作(ワード文書・エクセル表作成等) 年齢は35歳くらいまで(キャリア養成のため)
【勤務地】 東京都台東区入谷1-9-5
【勤務条件等】 日本医労連規約・規定に基づく(国家公務員に準ずる) 2022年12月28日(水)を予定し、1月に面接を行います。各加盟組織からの推薦、ご紹介をお願いいたします。とりわけ労働組合活動経験者を優先して採用する方向で考えています。よろしくお願いします。

【問い合わせ・履歴書送付先】
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5 日本医療労働会館3階
日本医労連・総務財政局 電話 03-3875-5871

医療の眼

人間の生体リズムに反した夜間労働、特に長時間夜勤については、心身に与える有害性が科学的にもあきらかになっています。健康リスクでは、慢性疲労や感情障害、循環器疾患や糖尿病、発がん性などが指摘され、安全面においても、夜勤や長時間労働の作業は酒気帯び運転と同等以上のリスクがあると指摘されています。しかしながら、医療機関では夜勤・交替制勤務は避けられませんが、よって長時間に及ぶ夜勤や短すぎる勤務間隔については、その改善や規制が強く求められます。

署名の力で健康に働ける勤務環境を実現しよう

改善されない看護職員の勤務実態

医療機関における「2022年度夜勤実態調査」結果は、「2交替」病棟の割合が44・9%で、過去最多となりました。「16時間以上」の長時間夜勤は、「2交替」職場のうち、病棟数の44・5%、看護職員数の43・1%と変わらず高い結果でした。

「目をみて看護したい」「患者さんの話をゆっくり聞きたい」「1日に何回も「ちょっと待って」と言わないで手を止めて患者さんと向き合いたい」「ただただ業務をこなすだけなんて嫌」。これは、看護現場から寄せられた声の一部です。

日本医労連では、2022年2月~5月を集約期間として、「やりたい看護」の声を集める取り組みを行いました。

多くの看護職員は、慢性的な人手不足と過酷な働き方によって本当はやりたと思う看護があってもそれができずに悔しい思いをしています。寄せられた看護職員の声は、その実情がともよくわかる内容でした。

新型コロナの感染拡大から2年10カ月が経過し、さまざまな報道を通じて国民に医療・介護現場の実態が広がり、看護師の働き方についても注目がされています。「やりたい看護」の実現は、非常に深刻だったのは、3割以上の施設で夜勤協定が「無」という結果だったことです。安全・安心の医療・看護を提供し、労働者の健康を守るうえで、夜勤協定の締結は欠かせません。夜勤協定が順守されているか、されていない場合はその理由を追求することも重要です。

大幅増員・夜勤改善の実現で、「やりたい看護」ができる職場に

松田 加寿美